

法学部・国際インターンシップ・プログラム 「国際金融証券市場と法」

わが師の恩 ～途絶えぬ絆、いつまでも～



三菱東京UFJ銀行
アラブ首長国連邦・ドバイ支店
山越陽祐

1. はじめに

現在、私は三菱東京UFJ銀行に入行して7年目となり、2015年3月からはアラブ首長国連邦のドバイ支店に勤務しています。

在学中の2008年度に「法学部の国際インターンシップ・プログラム「国際金融証券市場と法」(以下インターンシップ)」に参加する機会を得ました。

今回は当時の経験を振り返りつつ、それがその後の就職活動や社会人生活にどう反映されたかを紹介したいと思います。私の拙い体験談ですが、皆さんの学生生活や進路選択において、少しでもお役に立てれば幸いです。

2. インターンシップでの学修と研修

私が参加したのは、2004年度から2008年度まで法学部に開設されていたプログラムです。

講義には、大和証券グループ各社の第一線で活躍中のアナリストやエコノミスト、M&Aバンカーなどの方々がお越しになり、生の声を伺いながら経済・金融に係る基礎知識を学びました。

夏季には、東京・香港・シンガポールで実地研修も行われました。研修先は多岐にわたり、大和証券本店・同海外現地法人をはじめとした各種金融機関、東京・香港・シンガポールの証券取引所、現地の鉄鋼・インフラ系の事業会社、シンガポール国立大学などを訪問しました。

シンガポール国立大学の皆さんがとても意欲的に勉強されていたのが印象に残っています。

ちなみに大変な私事ですが、現在結婚4年目の妻ともインターンシップで知り合いました。人生何があるか分からないものです。

3. 就職活動に どう生きたか

私がインターンシップに参加したのは大学3年生の時で、まさに就職活動を控えた時期でした。

インターンシップの影響で金融に興味はありましたが、金融業界以外にもいろいろな企業を受けました。最終的には三菱東京UFJ銀行との縁を得て、入行を決めました。

私が就職活動で大切にしていたのは、財務の分析、企業の戦略、自分を飾らないことの3つです。

まず、インターンシップで学んだ手法を基に、志望する企業の財務体質は必ずスクリーニングし自分なりに分析するようにしました。また、企業戦略については、会社が中長期的に向かおうとしている方向性などを確認していました。

そして何より、自分を不自然に飾らない、というのは特に意識しました。就職活動では、自分を見失いがちで、ついつい過度に自分を飾り立てようとしてしまう人もいます。

しかし、一緒に働くパートナーとして面接官の方に判断してもらうためには、本当の自分を偽らないということがとても重要だと思います。

こういった考えの根底にあったのは、就職活動は「自分の人生を投資する先を見つける」という認識です。これはインターンシップの講師の

方々から頂いた知見でしたが、今振り返っても、大変意義深い視点だったと思います。

4. 入行からドバイ支店勤務まで

さて、三菱東京UFJ銀行に入行して最初の配属先は、実家のある岐阜県の大垣支店でした。そこで半年近くリテール部門のOJT研修を受けた後、法人業務に配属となり、融資・外為と営業の仕事をしていました。

当時はとにかく何をやっても失敗続きで、当然営業成績も振るいません。上司・先輩の指導のもと、地元愛に溢れた方々に何とか支えてもらう日々でした。

大垣での勤務から3年ほど経ったある日、群馬県の前橋支社に異動が決まりました。当行は群馬県に2000年代に進出したばかりで、新規参入

者の立場だったので大垣支店の時とはまた違う経験が待っていました。

群馬県は競合行も多く非常に厳しいマーケットでしたが、義理人情に厚い群馬のお客さまには本当によくして頂き、自分なりに成功体験を積むこともできました。

そんなある日、アラブ首長国連邦のドバイ支店への異動が決まりました。大学時代にインターンシップに参加して以来ずっと海外勤務は希望していたものの、期待と不安が混じったような気持ちになったのを覚えています。

異動が決まった次の週からは、焼け石に水とは思いつつも、駅前の語学学校に通い始めたりもしました。そうして公私ともに慌ただしい中、2カ月ほどで労働ビザなどの必要手続きが完了し、いよいよドバイへ向かいました。



左から順に、見寺佳代子さん、兵藤寿美さん、桑田稜子さん、筆者＝ドバイ国際金融センター

5. 中東最大の金融都市 ドバイでの日々

ドバイは、世界一高いビル「ブルジュカリファ」、ヤシの木の形を模した人工島群「パームジュメイラ」など観光都市として有名で、TVなどでご存知の方も多いと思います。

当地はまた、数多くの外資系金融機関が中東地域の統括拠点を置く、中東最大の金融センターという位置づけにもあります。

外国籍の人口が80%を超え、イギリスの保護領であった歴史的経緯からも、英語が広く使われています。

当支店の人員も20カ国近くからなる多国籍チームで、オフィスでのコミュニケーションはもっぱら英語です。

お客さまの多くが中東の企業で、当支店の人員も当地の外資系金融機関で経験を積んできた人材が大半です。私はその中で営業企画課という

業務施策に係る部署に所属しています。

英語について、語学学校の米国人講師からは「お前はコミュニケーション能力あるから大丈夫だよ!」と言われていたのですが、やはり最初はそれなりに苦労しました。

着任当初はなかなか大変な日々を送りましたが、3カ月を過ぎると、いつの間にか仕事上のコミュニケーションはある程度スムーズにできるようになっていました。

よくよく振り返ってみると、仕事で必要な英語は専門用語が多い一方で、話す内容や言い回しにそれほどバリエーションがあるわけではなく、今の業務範囲に限って言えば、赴任前の心配は杞憂だったと言えます。

豊富なボキャブラリーと正確な文法に裏打ちされた流暢な英語のことを“Strong English”と言いますが、確かにそれができる

に越したことはなく、特に重要な交渉局面で役に立つことは間違いありません。

それでも、仕事で英語を使う際に重要だと感じるのは、事前準備です。日常生活も同じで、例えば家賃交渉や値段交渉をする時なども(これはドバイでは日常なのですが)事前の準備が大切なのです。

すなわち、自分の伝えたいメッセージを予め明確にしておくこと、予想される質問や反論をできるだけ検討し、それに対する反論を用意しておくことです。

これは、大学のゼミで討論した経験と今までの営業経験がベースになっています。最近、海外赴任をしない新卒者の割合が過去最高であり、その理由として、自身の語学力を挙げている方が多いと聞きましたが、自分の工夫次第で何とかできることはたくさんあると思います。

さて、語学の話から少し離れて、



ドバイを象徴する世界一高い建物であるブルジュカリファで撮影
(写真はいずれも本人提供)



ドバイ支店の同僚についても少し触れたいと思います。当支店は中東という土地柄もあり、日本ではなかなか身近に感じられないイスラム教徒の同僚も多くいます。

例えば、イスラム教では豚やアルコールなどの摂取が教義で禁じられているため、こういうところのケアは不可欠です。

日本に一時帰国した際にお土産を買っていくとき、中東の人たちはお酒を飲まない代わりに甘いものが大好きなので、よく甘いものを持って帰るのですが、このチョイスにいつも頭を悩ませます。

というのも、菓子類には香り付けのため、洋酒が入っていることがあり、多くの菓子類がそれに引っかかるのです。

注意深い同僚は「山越、これは本当に食べても大丈夫なヤツだよな」とわざわざ聞きに来ます。日本のお菓子はおいしいのでとても人気なのです。

その他にも、中東にはインド出身者も多くいるのですが、ヒンドゥー教で菜食主義者が多いので、食事会の場所選びではベジタリアン向けメニューのあるところを探すなど、多様性を尊重することの難しさや面白さを日々実感しています。

また、こちらに来てから驚いたのですが、当支店には中央大学の卒業生が自分も含めて4人もいます。同じ出身大学者の存在にはとても勇気づけられ、自分が頑張る励みにもなります。

6. 最後に

今回改めて、インターンシップが自分の人生において非常に貴重な経験だったことを感じます。

これまで知らなかった世界を実際に見て聞いて体感することで、視野が大きく広がりました。この場を借りて、インターンシップに尽力してくださった皆さまに改めてお礼を申し上げます。

最後に、学生の皆さんにも人生の糧となるような経験を積極的に積んでほしいと思います。学生時代には自分で自由にできる時間がたくさんあります。社会人になると本当に自分の時間を取ることが難しいので、悔いのないよう有意義に過ごしてください。

— 電子書籍アプリ「白門書房」 —

『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、電子書籍配信アプリです。

『HAKUMON Chuo』のバックナンバーはもちろん、これまで印刷物のみで配布していた中央大学の大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

利用方法は簡単。iOS の場合は Apple Inc. が運営する App Store (アップストア) から、Android の場合は Google Inc. が運営する Google Play から無料でダウンロードできます。App Store および Google Play へは、無線LAN (Wi-Fi) を通じてどこからでもダウンロードできます。

『白門書房』ダウンロード後は、インターネットへの接続環境がなくても、電子ブックを開くことができます。

過去のバックナンバーや他の媒体を読みたい場合は、4G や Wi-Fi を通じて何冊でもダウンロード可能です。

本電子書籍・ドキュメント配信システムは、2016年3月現在、99冊の大学広報誌を用意しており、今後も、新刊本発刊次第、順次電子ブックで提供する予定です。

『白門書房』アプリについての詳細は、以下のサイトよりご覧いただけます。

【iOS版】

<http://itunes.apple.com/jp/app/id413465097>

【Android版】

<https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.documentcontainer.web>

※Android4.0未満の機種ではご覧いただけませんので、ご注意ください。

iOS版ニューススタンド (2015年リリース)

※定期刊行物である『HAKUMON Chuo』、『中央大学の近況』についてのみ、こちらでご覧いただけます。